

平成29年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金（活動記録）

活動実施日時			活動参加人数		タイプ	取組	写真番号
実施年月日	実施時間						
	時間帯	実施時間					
			構成員	構成員 以外の 参加者			
6月3日	8-17	6	5		里山林保全	芭蕉大湿原から岩礫渡道の保全作業	1
6月10日	8-17	6	4		里山林保全	岩礫渡道の保全作業	2
6月17日	8-17	5	5		里山林保全	ブナ回廊道の保全作業	3
7月8日	8-17	5	4		里山林保全	林班 2-8 と 2-10 の境界を踏査整備	4
7月15日	8-17	6	4		里山林保全	芭蕉大湿原の保全作業	5
7月22日	8-17	6	4		里山林保全	ブナ回廊道の保全作業	6
9月16日	8-17	7	4		里山林保全	作業道の保全作業（倒木、流水処理）	7
9月23日	8-17	5	5		里山林保全	作業道の保全作業（倒木、流水処理）	8
9月30日	8-17	5	4		里山林保全	林班 2-10 の保全作業	9
10月7日	8-17	6	7	7	里山林保全	岩礫沢新山道の開通記念登山と整備作業	10

10 月 21 日	8-17	6	4		里山林保全	林班 2・8 の保全作業	1 1
10 月 28 日	8-12	4	3		里山林保全	崩壊沢に植林する苗木の冬囲い作業	1 2

写真番号： 1 (6月3日)



取組内容

雪害を確かめながら、芭蕉大湿原から岩礎渡道を踏査しながら岩道の保全作業を行う。今年は雪害がほとんどなかった。

写真番号： 2 (6月10日)



取組内容

雨の中、岩礎渡道の保全作業を行う。途中、雨脚が強くなったのでテントを張り、避難する。気温が下がり寒くなった。状況に合わせた対応が重要であることを学んだ。

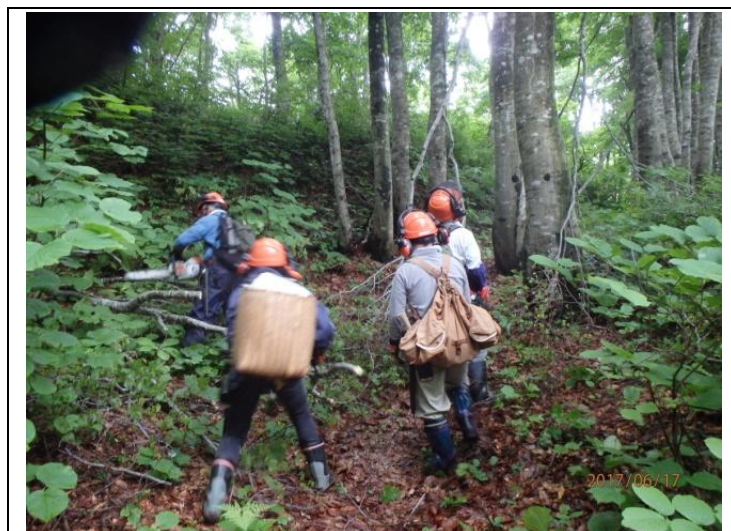
写真番号： 3 (6月17日)



取組内容

2-8林班と2-10林班の境界にあるブナ回廊の保全作業。下刈りと藪払いが主な内容。途中、熊芭蕉沼を発見した。標準地の候補とした。ここにクマの寝床があった。サワフタギとミズバショウが自生する沼。

写真番号： 4 (7月8日)



取組内容

林班2-10と林班2-8の境界を踏査確認する。下刈りし歩けるようにし、標準地となる候補を探索し、熊芭蕉沼を見付ける。

写真番号： 5 (7月15日)



取組内容

岩礫渡道の途中にある芭蕉大湿原の下刈り、藪払い、集積処理の作業を行う。ミズバショウは人の背丈ほどあり、広さは1.5町歩ほどある。柳の灌木の伐採と処理に難儀した。

写真番号： 6 (7月22日)



取組内容

ブナ回廊道の草刈りを行い、道全体の保全作業を行う。途中から、雨になったが合羽を着て作業を続けた。

写真番号： 7 (9月16日)



取組内容

糸畑の登山口から岩
礫沢に至る作業道の保
全作業を行う。倒木の
処理、流水による道の
寸断箇所の復旧などを
施した。ようやく人が
歩ける道を確保でき
た。

写真番号： 8 (9月23日)



取組内容

樹齢70年の杉三本が
作業道を倒れて塞いだ。
チェーンソーでそれを解
体し、集積処理を施し
た。

写真番号： 9 (9月30日)



取組内容

岩礫沢の2-10林
班の作業道の保全作
業を行う。作業道周辺
を踏査整備し、標準地
の候補地を探索した。

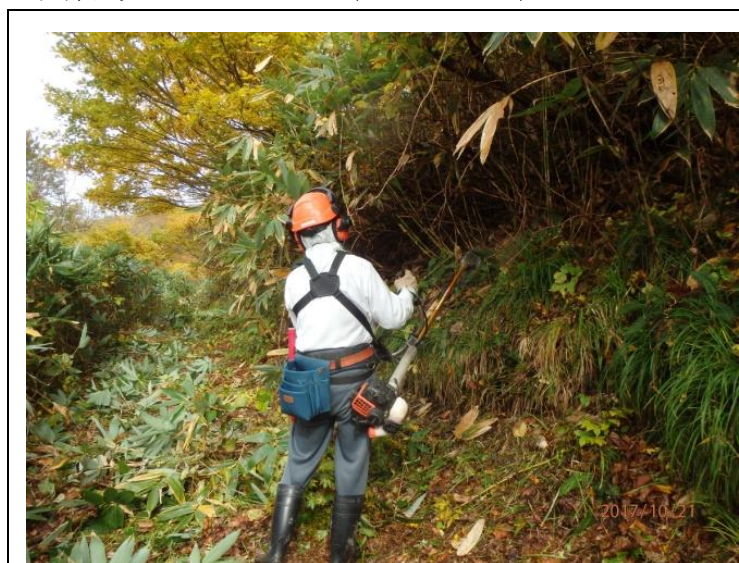
写真番号： 10 (10月7日)



取組内容

生憎の雨天模様だが、
 芳碓沢の新しい山道の
 完成を記念して黒森
 山・御嶽山登山を行っ
 た。横手山岳会と我孫
 子山の会からの参加が
 あり合計14名となっ
 た。

写真番号： 11 (10月21日)



取組内容

芳碓沢の2-8林班の
 作業道の保全作業を行
 う。ナラ沼とブナの丘
 の二ヶ所をを標準地と
 定め、その周辺の下刈
 りを行った。

写真番号： 12 (10月28日)



取組内容

平成30年に芳碓沢と
 大持沢に植林する広葉
 樹の苗木100本の冬
 囲いを行う。

平成29年度 モニタリング結果報告書

1 活動の目標

広葉樹林をきれいにし、希少種あるいは里山の指標種を保護したい

2 活動実施前の標準地の状況（平成29年度）

写真

熊芭蕉湿原

(39° 22' 15"、140° 37' 14")

林班2-8と2-10の境にある岩礫回廊を北に下りると溪谷があり、そこに湿原と沼がある。湿地にはミズバショウとサワグダギが自生している。沼の周辺に下刈りを施し、25m²の標準地とした。ミズバショウとサワフタギを指標とし、環境改善の成果を確かめる。

ミズバショウ 20本、サワフタギ 3本



檜沼

(39° 22' 17"、140° 27' 6")

岩礫三叉路から林班2-8境界沿いに南西に進むとナラの大木がある沼がある。この周囲を代表する典型的な地形と考えられるので下刈りを施し、標準地とした。自生のヤブコウジがある。ヤブコウジとヤマシャクヤクを指標種とした。

ヤブコウジ 2本、ヤマシャクヤク 0本



ブナの丘

(39° 22' 17"、140° 27' 6")

林班2-10の東側境界の中央に小高い丘がある。周囲は360度ブナの二次林である。ブナ林の典型と考えこの地を標準地とした。周囲に下刈りを施した。ここの指標種をヤブコウジとヤマシャクヤクとした。

ヤブコウジ 1本、ヤマシャクヤク 0本

